

4

No.

昭和 年 月 日

第一 蒙古聯盟自治政府 最高顧問

一、何れも人なりきりた

蒙古聯盟自治政府、高麗朝鮮同と、獨り出さず蒙古地

より、蒙古の心を和へて、大に高麗振興と述べたが、微力

大に事は出来ない

大東亞建設の一環として、蒙古王國より上り下りと思ふが

間、蒙古の、無此と蒙古聯盟と、今春より蒙古聯盟自治政府

と、蒙古の、蒙古聯盟と、今春より蒙古聯盟自治政府

と、蒙古聯盟と、最高顧問として、今春より

二、何れも人なりきりた

蒙古大會議と、蒙古聯盟自治政府は、何れも必要とするが、

と、何れも人なりきりた

二、目的大に、蒙古聯盟と、今春より蒙古聯盟自治政府

0882

王族の税利通達と考按にも一医療は漸く更に向上する
ものと希望を述べ、専ら蒙古民族の教育を爲り
經濟的繁栄を爲すに定む

第一目的は、児童利便、施設と定む

第二目的として、その産業の発展と、對社會に依りて、道義

一、事業由は税金と課税に其力の殆どを尽す事

叙高のナと主峯——希危ハナと振興——叙高主國——

卷之四

三、當時政府與軍、政、院、特務機關等個個商。

卷五 國論と述へし日大智人々曰 同表一 斯くも人々曰

同調より約はあやう
ふた味より約はあやう
満洲國の無差

陽抄も衆と違へたり文化の異なる
衆は亦て其

常長、此山、通、事、過、

No.

昭和 年 月 日

朝鮮の之を視て満洲の内訌を形式にとりて
 朝鮮人の手による満洲國の日本に各一自己の力
 成績を發表せしむるは頭一と大東亞圖の果あり
 一國を収めず國、是は必ずしも中と表あり
 寧ろ其果と其儘に居るは亦好むと時を待て
 同下の勢力をりて自らを總て日本に建設に因り
 千を要するは——は同くは月を金く又は
 一國と人との間にありてあり
 四、軍、朝鮮の採用、其意は必ずしも朝鮮人の
 力の中、民族の統一、官力と向上、立派に
 其國にん中、其意は必ずしも朝鮮人の
 或るはあり月、随分とありてあり、
 是れは、其意は必ずしも朝鮮人の

0884